

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

「アルツハイマー病治療薬を目指して」

- 創薬における特許とライセンス
- ASIM プロジェクト update

治療薬探索研究部 医薬化合物開発室

河合 昭好 室長

平成26年4月10日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

人口の高齢化に伴い、認知症患者は増加の一途を辿り、大きな社会問題となっている。中でも患者数の最も多いアルツハイマー病には根治薬が存在せず一日も早い開発が望まれている。製薬会社を始め多くの研究者がその開発に多大の努力を傾けてきたが、未だ有用性が認められた薬剤はなく、それどころか有望視された薬剤が相次いで臨床試験で脱落しているのが現状である。そのような中で NCGG には他機関では実現できない画期的な創薬が期待されており、それを可能にする人材、設備、公的支援策などが整いつつある。

本報告会の前半部分では、患者様とそのご家族が切望する画期的な治療薬を届けることを最終ゴールとして NCGG が目指すべき出口戦略について考え、その出口戦略を達成するために不可欠な特許とライセンスアウトについて説明する。後半部分ではアカデミア創薬の1例として昨年4月から取り組んでいる ASIM (Anti-Seed Internal Medicine) プロジェクトの進捗を簡単に報告したい。